

外房法友会

法政大学校友会
外房法友会 会報
第 14 号

発行所 法政大学校友会 外房法友会
発行人 目良俊徳
〒298-0005 いすみ市新田788
TEL 0470-62-9429

平成28年度「外房法友会」総会報告

照川 三郎



総会参加者の集合写真

平成28年度外房法友会の総会が、平成28年7月2日（土）会場を新たに、長生郡一宮町のホテル一宮シーサイドオーツカにて開催しました。

当日のご来賓は、法政大学校友会組織部会山崎文彦様、千葉県校友会会長廣野貴之様、千葉県議会議員阿井伸也様、校友会千葉中央支部長岡本眞司様、成田法友会会長土井一彦様、船橋法友会副会長市山尚史様のご臨席をいただき総会が開催されました。

総会は、平成27年度の活動報告、会計報告、監査報告及び平成28年度活動計画、役員の改選について慎重に審議され、原案通り可決され無事終了しました。

総会終了後、行われた講演では法政大学OBで、第35代世界ライト級チャンピオン木村悠氏（千葉市出身）の講話をいただき、中学時代にボクシングと出会い、その魅力にみせられ本格的にボクシング人生をスタートさせ、法政大学一年生の時アマチュア日本一に輝きその後プロデビュー。6戦目で初黒星を喫し「自分を変えたい」という思いから、商社に勤めながらプロボクサーとしての道を選び、日本チャンピオン、世界チャンピオンのタイトルをつかみ自らの体験を通して「仕事とボクシングを両立させ夢を叶える。」ことを話す姿は、選手時代を感じさせ、聞いている人に感動を与えてくれました。

懇親会では久しぶりの仲間との再会に話に花が咲き、年齢差など感じさせないほどそれぞれ学生時代の話題が尽きず、時間がたつのも忘れるほどでした。また、木村氏がチャンピオンベルトを持ち各テーブルをまわり、会話の中にはいっていただき、チャンピオンベルトの重さを感じながら、肩にかけたり自分がチャンピオンになった気持ちになり、親交を深めることができました。

最後は、出席者全員が一つの輪になり、母校法政大学を思いながら、校歌「若きわれらが・・・」を大合唱し閉会となりました。

長生・夷隅地区には現在役500名の仲間がいます。会員の皆様には是非、総会や各種行事に進んでご参加頂き交流の輪を広げ、外房法友会の仲間の絆を強めていきたいと思っておりますので、一人でも多くの皆様のご支援ご協力をお願いします。

（昭和48年文学部卒）

今年度、総会後の懇親会では

法政大学マンドリンクラブ

の学生が演奏します



講演する木村悠氏

第27回法政大学全国卒業生の集い

「千葉大会」に向けて

目良 俊徳

私はこの全国大会にまだ参加したことがない。ただ、我が外房法友会会員の中では毎年必ず参加する母校愛に満ちた平川忠勝君がいる。彼の話によると、とにかく素晴らしい大会で終わると来年また参加しようという気持ちが沸いてくるそうだ。昨年「京都大会」には、外房法友会から古山弘副会長並びに矢澤邦公幹事ご夫婦4名も参加している。お二人に感想を伺うと、とても楽しく参加してよかったとのお話であった。詳しくは、会報「外房法友会」の参加報告をお読み頂きたい。

さて、この大会は歴史が古く第1回の昭和61年「新潟大会」から始まりすでに昨年の「京都大会」が25回目である。大会の目的は、法政大学校友会会員相互の親睦を第一とし、さらに我が母校、法政大学の学生や大学の教育活動を応援するために法政大学校友会都道府県校友会の組織強化にあると言われている。回を重ねる中で参加者も次第に増えてきており、少ない大会でも約400名、多いときは800名近く参加した大会もある。

そして、平成28年千葉県校友会総会で来年、第27回法政大学全国卒業生の集い「千葉大会」の開催が決まった。同時に全国大会実行委員会も立ち上がり、参加目標数を1000名とし、準備が始まっている。さらに、以下のように日程も大枠で決まった。

<期日> 2018年10月5日(金)～7日(日)

第1日(5日) 記念ゴルフ大会

第2日(6日) 式典並びに懇親会(東京ベイ幕張ホテル)

第3日(7日) エクスカーション(千葉観光)

千葉県校友会は、かつて3支部(千葉中央・松戸・外房法友会)で組織されていたが、法政大学校友会組織部会並びに千葉県校友会役員皆様のご努力により、今や県内8支部までに組織が拡充し会員も増えてきている。従って、この8支部の会員皆様で協力すればこの大会の成功は間違いないと考える。今後、千葉大会開催に関する参加者募集など、案内文書等で我が外房法友会に何かとご協力をお願いされることが出てくると思う。その時は、母校愛と併せて千葉県校友会の誇りを胸にご協力のほど宜しくお願いします。

最後に改めて申し上げます。法政大学全国卒業生の集い「千葉大会」は来年です。会員の皆様、今後とも外房法友会の活動にご協力頂き母校法政大学の発展に向けて共に歩んでいきましょう。

(昭和46年法学部卒)

千葉県校友会 は近年支部の設立が相次ぎ現在の支部は以下のとおりです

千葉中央支部

松戸支部

外房法友会

成田法友会(平成24年設立)

船橋校友会(平成27年10月設立)

内房支部(平成28年5月設立)

市川法友会(平成28年11月設立)

東葛支部(平成29年5月設立予定)

法政大学 全国卒業生の集い 京都大会

矢澤 邦公

「法政大学全国卒業生の集い」が平成28年11月11日（金）～13日（日）までの3日間、京都で開催されると聞き、夫婦旅行も兼ねて12日のウエスティン都ホテル京都での大会式典・懇親会、13日のエクスカージョンに参加してきました。外房法友会からは他に、古山弘副会長夫婦も参加され、式典当日のテーブル、翌日のエクスカージョンも同じコースとなり、お世話になりました。

12日の朝、5時5分の茂原駅発の電車で出かけたところ、鎌取駅を過ぎたあたりで事故のため止まり、東京駅7時発の新幹線に間に合うか、ひやひやしながら待っていたところ、30分後位に動き出し何とか間に合いました。京都には、9時過ぎに着き、南禅寺・永観堂・銀閣寺を見学したのち、会場のホテルへは12時過ぎに到着しました。

大会式典・懇親会は、全国から670人の卒業生が参加され京都の雰囲気醸し出して盛大に開催されました。

講演では、第15代前家元の千玄室氏により、千家は房総の里見家の流れであること、「間」は茶道、武士道にも通じるものであることなど、93歳のご高齢にもかかわらず、健康でお元気に話されておりました。次に、田中裕子総長による、大学の現状についての話がありました。最後に、菅義偉内閣官房長官による、学生時代の逸話や政治家を志し、駆け出し時代の苦労話、「ふるさと納税」「地方活性化」などに尽力したことなどの話を披露いただきました。

式典では、国歌斉唱、開会宣言、挨拶（桑野大会会長）、祝辞（田中総長、山田京都府知事、門川京都市長）、乾杯後の懇親会では、獅子の親子が豪快に、赤白二匹の獅子が乱舞する「金剛流の能楽」、「あらあらありゃさ」の掛け声で招福を祈願する「祇園甲部芸妓の手打ち・舞子の舞」、3名による「日韓テノールの競演」、腹の底に響く「亀岡太鼓」が披露され感動しました。最後に、次回の開催地・宮崎県への引継ぎ（平成29年）、校歌斉唱により閉会となりました。

翌日、13日のエクスカージョンは八坂神社・建仁寺・花見小路散策・祇園「新門荘」舞子と昼食の内容で、紅葉には若干早い感じでしたが、京都を満喫して、夕方、帰路につきました。

なお、平成30年の全国卒業生の集いは、千葉県にて開催されることが決定しております、すばらしい大会になりますよう皆さんで盛り上げましょう。

(昭和52年経営学部卒)



南禅寺の山門から見た境内



講演する千玄室氏

漂流する世界政治の行方

いすみ市長 太田 洋

あの第二次世界大戦が終了し、世界はファシズムから解放され、自由主義国家と社会主義国家に二極化されました。その後、ベトナム戦争や様々な地域紛争がありましたが、もう二度と世界戦争は起こさないとの決意のもと、経済発展に主眼をおいた時代が到来しました。

米ソの冷戦時代の中でも、二度と戦争は起こさないという覚悟でそれぞれの体制の強化を進めてきました。その中で、ヨーロッパでは、あの悲惨な戦争を避け、共に連携して生きていく術としてのEU、所謂ヨーロッパ連合を創設しました。特に、ヨーロッパ戦線で死闘を行ったドイツとフランスについては、特にフランスはドイツと敵対関係にありましたが、ドイツの不戦の誓いによって歴史的な和解が出来、ヨーロッパが不戦の誓いをたてることに繋がりました。ヨーロッパは、EUで結びつき、共に1通貨のもと、経済発展の道を歩みました。

しかし、グローバル経済の発展によって、先進諸国の輸出品が発展途上国でも作れるようになったことで、賃金の安さを求めて企業が海外へ移転するなど、先進国の経済分野が徐々に縮小され、かつ本国雇用が縮小するようになったことで、失業者が増え、自由中心の自国主義が台頭してきました。この現象は、イギリスのEU離脱に始まり、アメリカ大統領に就任したトランプ氏がその象徴のように思います。アメリカは世界の経済大国でありながら、貿易では大幅な赤字を抱え、かつ国外に企業は移転し、主力産業である自動車産業は低迷するに至ってしまいました。今まで、グローバル経済をもとに、寛容と自由で世界をリードしてきたアメリカのあり方を鋭く指摘したのがトランプ氏でした。グローバル経済に逆行して、一国主義をめざす発言を繰り返すその姿は、第二次世界大戦の前の時代の流れに移行するかのようには思えます。ヨーロッパの移民問題、イギリスのEU離脱、ヨーロッパ政治の不透明さを考えると、もはや世界はあの戦争から学んだが寛容、自由、平等を忘れてしまうか非常に心配になります。

近年、各国でテロが発生していますが、この要因は経済と雇用が低迷する中で、相手が良く見えて、自国の不幸はグローバル経済にあると考え、その結果、寛容さを失い、ヒステリックな一国主義の考えが蔓延してきていることのように思えます。世界の政治が大きな波を受けている時、アジアの経済大国日本の進む方向は、戦後日本の掲げる自由、人権、平和を基本にアジアの国々と連携して、一国主義でなく共生社会をつくる努力をすべきと思います。世界政治の流れが力と力の対決でなく、寛容、自由、平等の政治の理想を失わないで欲しいと願う日々です。

(昭和47年経済学部卒)



不二サッシ株式会社

営業本部 建材営業本部

特需事業部 参事 鈴木 勝善
(昭和42年法卒)

東京都品川区西五反田4丁目32番1号
TEL 03-5745-1237 FAX 03-5745-1296
携帯電話 090-6795-2524

損害保険ジャパン代理店
損保ジャパンひまわり生命保険代理店

中村保険サービス

中村良逸 (昭和44年経卒)

茂原市高師392
TEL 0475-22-2853

「白井鳥酔」

渡辺 光夫

長生郡長南町地引の正善寺には、白井鳥酔（しらいちょうすい）の墓がある。彼は俳諧（句）史上有名な俳人でありながら、俳句の作者は勿論のこと、地元（長生郡市）の人達にも余り知られていない。そこで、地元でたまたま俳句を作っている一人として、彼の業績等を調べて、少しでも顕彰出来ればと思っている。

鳥酔について、全体像を一番簡単でしかも分かり易く説明してあるのは、正善寺の案内版である。寺には彼の墓があり、千葉県指定史跡になっている。以下その案内版の全文を紹介する。

「白井鳥酔は元禄14年（1701）地引で代々、代官をつとめて来た白井家の喜右衛門信利の長男として生まれた。一時代代官をつとめたが故あって家督を弟に譲って後見人となり俳諧を志した。そしてこの正善寺に庵を結び露柱庵と号し、のちに江戸に出た。鳥酔は芭蕉の没後俳諧が低調俗化するなかにあって芭蕉の正調俳諧を説き天明の俳諧復興に大きく貢献した。

明和6年（1769）4月4日江戸で没した。享年69歳。遺骨は相州、江戸、正善寺の三箇所に分骨された。正善寺の墓地中央には露柱塚と名付けた鳥酔の碑がある。

涼しさやむかしへもどる夢の橋 鳥酔翁

昭和61年12月1日

千葉県教育委員会・長南町教育委員会

鳥酔は今から約300年前の人であり、彼の研究については未分野が多い。研究書も少なく、その中で有名なものに昭和八年発行、天野雨山の「俳豪鳥酔」がある。現在では加藤定彦氏が「連歌俳諧研究」に翻刻「鳥酔居士句集」を発表している。その中には彼の俳句1170余句がある。

句碑は、その人の句を代表にしているものである。以下各地にあるものを紹介する。

○「僧に法むしにこえあり夜母すがら」

群馬県北群馬郡子持村中郷（現渋川市）雙林寺境内

○「おもしろい夢見る顔や涅槃像」

群馬県碓氷郡下豊岡村（現高崎市）万人堂入口

○「大嵐や波によせたる雪の船」

神奈川県中郡大磯町大磯 鳴立庵

○「松風の骨になつたる寒さ哉」

東京市品川区鮫州（現品川区南品川56-22）

「白井鳥酔」のことは拙著「長生郡市の俳句」に詳しく載せてある。

(昭和32年経済学部卒)



正善寺入口



露柱塚の碑

「良き時代」

佐久間 武

昭和39年卒で、70代の半ばを超え、「良き時代」を生きてこられたと思う昨今です。

一つ目は、戦争に行かなくて済んだことです。

数年前、戦後70年とよく言われました。戦前70年を振り返ってみますと、日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦、日支事変、日米戦争と大きな戦争が5回もありました。徴兵制ですので、強制的に軍隊に行かされ、何百万人の人達が死亡しました。

二つ目は、平等な社会になったことです。

江戸時代には、「士農工商」の身分制度がありましたが、明治になり廃止され、国民は身分的には平等になりました。しかし明治17年に、特権的な華族令が制定され、公爵、侯爵、伯爵、子爵、男爵の身分制度ができ、国民は身分的に平等ではなくなりました。公爵と侯爵は、選挙によらず世襲的に貴族院の議員なれました。戦前、女性の選挙権はなく戦後に付与されました。

三つ目は、高度成長時代を生きられたことです。

神武景気、岩戸景気、オリンピック景気、いざなぎ景気と好景気が4回連続しました。初任給が20年で10倍になりました。現在の初任給を20万円としたならば、20年後に初任給が200万円になることなど考えることはできないでしょう。もちろん、30代、40代のサラリーマンの給与もどんどん上昇しました。

「三種の神器」という言葉が流行しました。テレビ、電気冷蔵庫、洗濯機のことを三種の神器と言ったのです。この神器が各家庭に入り生活レベルが大変向上しました。家事労働で一番大変だったのが洗濯でした。「たらい」と洗濯板を使い手でもんで洗っていましたので。

次が3Cの時代でした。カラーテレビ、クーラー、カーが手に入り一段と生活レベルが向上しました。

不動産ブームが起き、争って、人生で最大の買い物、土地を買い家を新築しました。そして、その家には電話が架設されました。

無いものがどんどん手にはいり、喜びと希望に満ちた時代でした。

四つ目は、言論が自由になったことです。

私の卒業証書の総長名は、第10代の谷川総長です。第8代の大内総長と第9代の有沢総長は、治安維持法により戦前に逮捕されました。

私は、日本の歴史上、最高の「良き時代」を生きられたのではないかと考えています。

(昭和39年法学部卒)

東京六大学野球2016年

秋季リーグを観戦して

渡邊 康志

東京六大学野球といえば、過去に何度も、法政大学が異次元の強さを誇っていました。

しかし、2016年度の秋季リーグは、4勝8敗（勝率.333）で、5位という大変残念な結果に終わりました。

既に、優勝の可能性はなくなっていました。2016年10月23日、明治神宮野球場に、外房法友会の有志で応援に出かけました。すばらしい秋空の下、気持ちよく応援することができました。結果は、3対1で、法政大学が勝利を収めました。

大学野球の応援に行くと、野球だけでなく、応援団やチアガールの活動を観ることが楽しみです。法政のチャンスを迎える度に、全員が立ち上がり、隣の知らない方とも肩を組んで応援歌や校歌を歌います。次第に気持ちが若返り、最後にはすっかり、老体が応援席の熱い雰囲気と一体化しているから不思議です。

その後、たまたま読んだ新聞で、「東京六大学野球ゼミナール」というものが発足したことを知りました。これは、各大学に在籍する3年生が、リーグ戦の運営体験、スポーツビジネスなどの学習等を通して、六大学野球活性化のための企画を協議し、連盟の理事会へ提案をするという活動だそうです。一般学生の視点を、リーグ戦運営に取り入れ、神宮球場に足を運ぶ学生ファンの増加につなげるのが狙いだそうです。

ゼミ生のアイデアで、2017年より、ツイッターやインスタグラムによる試合の情報発信を始め、学生限定のTシャツ配布や学生へのグラウンド開放などが予定されています。そして、ゼミの目標を、2017年秋季リーグの開幕戦に3万人を動員することとしています。（2016年秋季リーグ開幕戦は、8000人とのこと。）

皆で知恵を出し合って、日本最古の大学野球リーグである東京六大学野球を盛り上げていって欲しいと思います。そして、皆さんも、ぜひ、機会があれば、応援に訪れてください。気持ちが若返りますよ！

(昭和49年工学部卒)



退職後の設計建設工事を振り返り

浅葉 文雄

皆さん、家庭から出される資源ごみの分離・分別作業を行っていますか。

私は、日量、約100トン（約400万本）の使用済みペットボトルを再生する、国内最大級のペットボトルリサイクル工場にて技術顧問として従事しています。

本投稿の原稿は昨年四月の会報に乘せるつもりであった。建設工事の遅れが原因で公開が出来なかったことから、今回の会報になってしまった。そのわけは後につづる。

さて、この技術との出会いは、現役サラリーマン時代にさかのぼる。私は昭和47年に三井石油化学工業株式会社（現-三井化学株式会社）に入社し、製造設備の保守部門、技術開発部門、設備企画から設備設計・建設を行うエンジニアリング部門にて設備技術畑を担当し、国内・海外での仕事をやってきた。

四十代後半にPET（ポリエチレンテレフタレート）樹脂を製造している関係から、PETボトルリサイクル推進協議会（ボトル製造メーカ、飲料メーカ、樹脂製造メーカからなる団体）の技術部会にて技術支援をすることとなった。

ここでは、PETボトルを拡販するには、PETボトルをリサイクルする技術確立し、年間1万トン以上処理する標準モデル工場を全国に八か所程作る目標を掲げており、これまでの業務履歴がマッチする仕事であった。

この協議会の下で、研究開発を2年ほど行い、技術確立した。次にモデル工場の設計建設を請負うエンジニアリング会社の応札・評価を行ったが、国内で初めての設備であり、汎用樹脂のリサイクル技術から比べると再生製品の品質レベルが二桁以上厳しいことか、納得できるエンジニアリング会社選定に苦慮した。そんな時、協議会側から技術を一番知っているのはお前なので、あんたが引き受けてくれないかとのことから、三井化学にて、設計・建設、試運転まで行う事となった。

私は、そのプロジェクトのまとめ役となり、その後全国に7ヶ所の設備を作ってきた。この間、社内での技術開発も行い飲料用ボトル品質まで再生品を高める技術も開発し、米国の食品安全協会の評価も得るまでに至った。

しかし、残念ながら会社経営方針から、エンジニアリングの外販は行えなくなった。この時点で、私のPETボトルリサイクル設備技術の業務から離れ、以後、社内のエンジニア達を支援する技術基盤強化業務に携わり、定年、再雇用契約をへて、2014年6月に三井化学を退職した。

退職してから、2カ月後にある電話があり「遊んでいるなら、うちに来て、技術を見てもらえないか」、しばらくして、「欧州に行って、最新技術調査をしてくれないか」、この電話の主は、年間2万トンのPETボトルリサイクル設備をジャパンテック(株)宇都宮工場として、2001年に納入した、栃木のPETボトルリサイクルや再生樹脂販売をしている協栄産業(株)の社長（ジャパンテック(株)社長も兼ねる）だ。会って話をしたら、第2工場を計画しているので技術顧問として支援して欲しいとの事であった。よく私を覚えてくれていたと、感謝と共に契約をした。

ここから、私の苦勞が始まるのである。当時の顧客は、ペットボトルリサイクル技術を持ち合わせていないので、基本的に設計・建設は、三井化学側の主導で進めていった。あれから15年数々の運転ノウハウを蓄積している顧客は、最新技術を取り入れた独自のプラントを作りたいという思いがある。しかし、さまざまな要求に対して提案をしていくが、決断しないし、纏まらない日々が過ぎていった。このことから、三井化学時代に、共に仕事をしてきたエンジニアリング会社について行けないと、辞退されるはめになった。苦肉の策から、協栄産業グループ下で、無理がきく工事業者（三井化学からすると二次下請けレベル）を使わざるを得なくなった。

社内での苦勞に続き、業者との二重の苦勞を背負うこととなってしまった。当然、基本プロセス設計は出来ないの、プロセス構築計画、主要機器サイジング、プロセスの制御方案等は私がせざるを得なかった。会社退職時に関連資料は持ち出し出来ないの、思い出しながら設計作業をやらざるを得なかった。よく一人でやれたと自分で自分を褒めた。



後は、調達から、詳細設計は、工事業者の範疇なので、設計監理を行っていけば良いと考えていた。甘かった、図面・書類を作って事前承認を受け、調達・工事をすすめる慣習がこの工事業者及び顧客にもないのには、驚いてしまった。全体配置図は作ったが、装置据付図がないので、業者からこの機器はどこに据え付けますかと聞かれる始末、もちろん配置が決まらないので配管施工図もない。すべて、現場指示だ。これが、中小のやり方だと聞き直された。

等々と、苦労話をするのと切りがないが、このことから、建設完了を2015年9月から2016年3月に変更はしたが、さらに、工事が遅れ、2016年7月に完工・竣工式となってしまった。現在は、運転には入っているが、今だに改善工事・制御バグつぶしが続く日々だが、半面、やりがいは感じている。

(昭和47年工学部卒)

メガソーラーコンサルタント

A I K A 愛花創業株式会社

代表取締役 花澤良三

(昭和46年経卒)

市原市海士有木661番地3
TEL&FAX 0436-36-1160

齊藤法律事務所

弁護士 齊藤友嘉

(昭和52年法卒)

東京都中央区銀座7-15-5 共同ビル401号室
電話 03-3543-1341
FAX 03-3543-1343

公共測量・公共土木設計・地籍調査

株式会社三陽測量設計

古山弘 (昭和49年工卒)

長生郡睦沢町小滝 475-1
TEL 0475-44-1869

原稿募集

会報に載せる原稿を募集しています

連絡先

TEL 090-3431-8454 (携帯)

メール

h.furuyama@sanyou.sakura.ne.jp

会報担当古山まで

2017年オール法政新年を祝う会

成嶋 まさる

2017年1月28日に開催されたオール法政新年を祝う会に、夫婦で参加してきました。たぶん、5年連続で参加していると思います。外房法友会関係者では、古山副会長、浅葉幹事、花澤先輩たちも出席されていました。参加したことがない方から見れば、参加する人は学校関係者など内部的なやや特殊な人たちだけだと思われるかもしれませんが、実際には、そんなことはなく、極めてオープンで、会費さえ払えば、だれでも参加可能です。

1人で参加するのがちょっと怖い方は、同伴者として会費を払えば卒業生ではない恋人でも、参加可能です。(実際にそういう方を見ました。)

マンドリンクラブの演奏で幕を開け、卒業生の重量挙げメダリスト三宅宏実選手のスピーチに続きます。三宅選手は147cmと小柄で、とってもかわいい方です。どこにそんな力があるのか不思議です。同伴した妻の方が、力があるように思えます。

続いて坪田駅伝監督のスピーチです。2017年の駅伝はシード権を獲得し、がんばっていました。青学の監督みたいに有名になってもらいたいものです。2018年は応援に行こうかなと思いましたが、寒そうなのでちょっと考え中です。

その後、法政校舎の昔と現在の映像が流されました。参加者の年齢は中高年の方が多く、皆さん懐かしそうに昔の校舎の映像を見ていました。そういえば、昔の大教室511号室も最近取り壊されたようですし、JR飯田橋駅のホームから改札口へ通じる長い坂道通路もなくなりました。時代は少しずつですが、確実に変化していることを感じました。

1時間を過ぎても乾杯はまだ始まらず、田中優子総長の祝辞となります。2017年の法政受験志願者は11万5千人を超えたそうです。受験料3万5千円で計算するとすごい金額になりますが、総長は受験料総額の話はせず、文科省から入学定員数厳守を求められ、なかなか大学経営は厳しく、寄付がほんとにありがたいと挨拶していました。母校が経営難で閉校になっても困るし、寄付はちょっと厳しいですが、知り合いの子弟にはぜひ法政を受験するように勧めたいものです。

そのあと何名か祝辞が続き、やっと乾杯となります。12時に会がスタートしても、食事できるのは2時近くとなります。おかげで、食事もおいしく、お酒の酔いも早く心地よいです。しかし、やや緊張気味で宮崎県校友会会長が、「2017年全国卒業生の集い宮崎大会」のご案内をしているのを知り、来年は千葉大会かと現実に引き戻らされたりもしました。

そうはいつても、例年通り応援団、チアガールを見て、元気ができました。最後は全員で校歌斉唱してお開きです。

妻は、帰り際、三宅選手に握手をしてもらっていました。いつかは外房法友会総会のゲストに来ていただきたいものです。

1月下旬に時間がある方は、オール法政新年に祝う会に参加されてみてはいかがでしょうか？なお会費は1万2千円で同伴ご家族は8千円です。

(昭和57年法学部卒)



編集後記

今春、法政の志願者数が早稲田・明治を抜いて全国第2位だそうだ。1位は養殖まぐろで有名な近畿大学である。毎朝、新聞を見ながら「法政」という記事があると見しまう。卒業して何年経とうが母校の話題に耳を傾け母校を誇りに持ち続けていたい。そういう母校であって欲しい。